

「使いこなせる動詞を増やそう」

今回は動詞について考えてみたいと思います。「する」「やる」の代わりに、いろいろな動詞を理解し使いこなすことで、子どもがさらに説明上手になることが期待できます。また様々な動詞を理解することは、日常生活動作を獲得する意味でも重要です。

ここでは普段の声かけや、遊びを通して、いろいろな動詞を理解・発信することを目指しましょう。

- ① 普段の声かけにひと工夫：(例)「お茶を入れるもの、持ってきて。コップね。」
- ② 身の周りのものや絵カードを聞いて、取る：

(例)：「ふく」もの、なに？。。タオル、トイレットペーパー、ラッパ、雑巾 など。

「かける」もの、なに？。。そうじき、でんわ、めがね、ふとん など。

「きる」もの、なに？。。はさみ、服、包丁、着物 など。

*②の遊びでは、子どもが問題を出すことで、覚えた動詞を使う機会になります。
また事物やカードを使わず、口頭で答えることもできます。

～いっしょに遊ぼう～

『向かい合って手をつなぐ』学びの深さ

手をつなぐというのは、手の温もりを感じるだけではなく、学ぶものが多くあります。

- ① 相手の鼓動を感じる
- ② 力加減を学ぶ
- ③ うたや相手に合わせる自己コントロールの育ち
- ④ 社会性、協調性
- ⑤ 注意力

人間のコミュニケーションの基本は1対1。相手を観察し、察して自分の言動を調整していく基礎を遊びの中で培っていきます。

手をつないでうたに合わせて振り、しぐさをして、見つめ合って笑い合う。友達とピタッと呼吸(動き)が合う瞬間は心地よいものです。そこから集団遊びで④がさらに育っていきます。

あかちゃん時代のスキンシップの豊かさがベースにある事も忘れてはなりません。

ちょっと ばあさん おにぎり ちょうだい
チョコ パー グー チョキ
かみに つつんで おにぎり ちょうだい
パー グー グー チョキ
じゃんけんぽん！

横に座ったり、何か不機嫌そうにやって来た時などに何も言わず片手を握り、おもむろに始めます。大好きなじゃんけん遊び。2度目で遊びが何かが分かりますよね。言葉と手の動きを結びつける思考力も育てます。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます
夢と希望もてる たからっこを
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター

〒665-8665 宝塚市東洋町1-1

電話 0797-71-1141(市役所)

0797-77-2132(直通)

FAX 0797-71-1891

E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。